

東京学芸大学 探究プロジェクト

ツールキット 【国語】編



大分県教育委員会

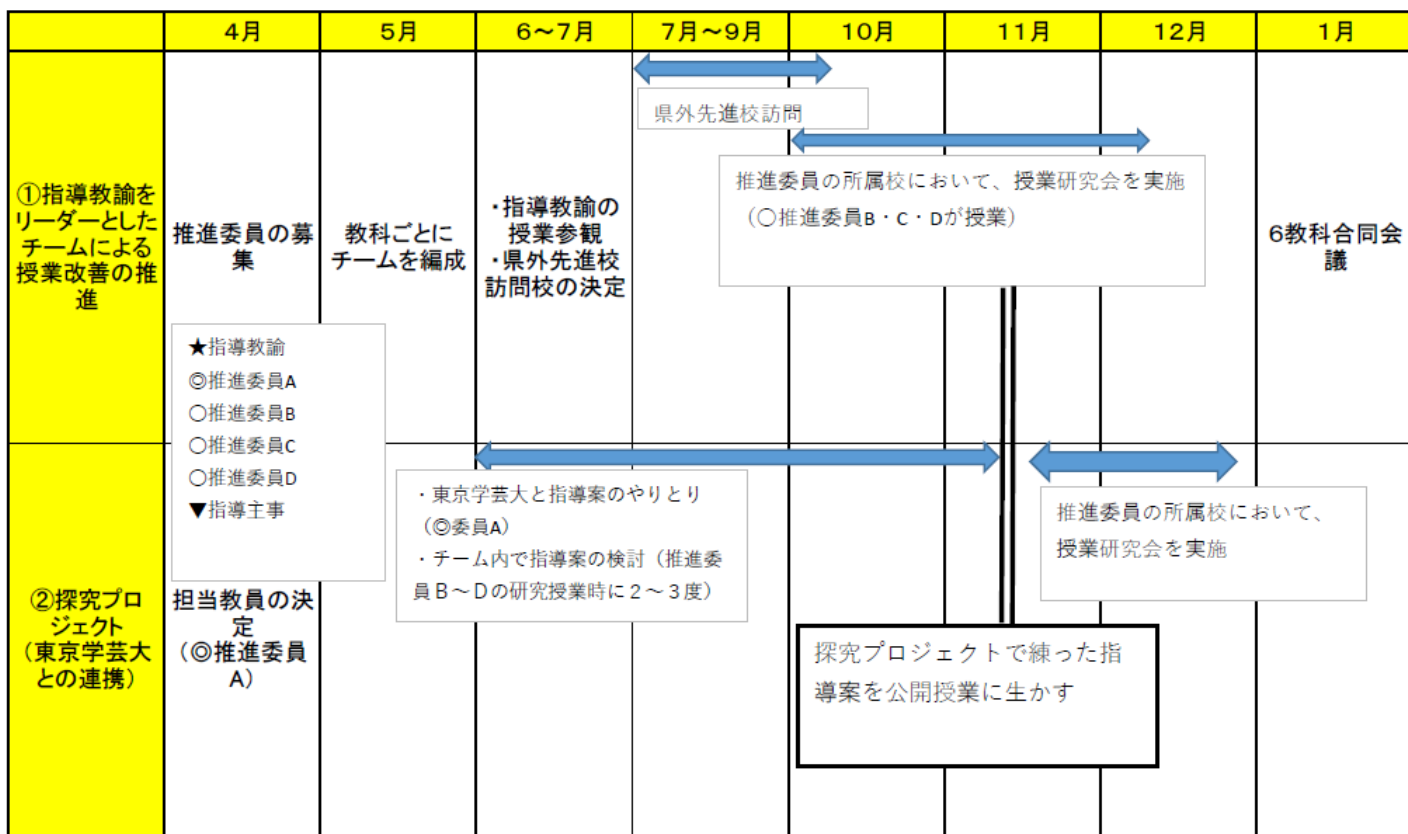
0 はじめに

大分県教育委員会では毎年、「指導教諭をリーダーとしたチームによる授業改善の推進」という取組をおこなっており、各教科指導教諭1名を中心として、若手～中堅教員3～4名(推進委員)、県教育センター指導主事、高校教育課指導主事をメンバーとした推進チームを作り、授業研究会を中心として授業改善を図ってきました。

今回、東京学芸大学と「探究プロジェクト」で連携するに当たり、この取組とリンクさせ、推進委員の中から代表として1名に「探究プロジェクト」に係る公開授業を行うこととしました。

0 はじめに

◎年間スケジュール概略



1 指導案検討について

◎指導案検討の流れ

R4.9.6 授業担当者による公開授業

- ・授業担当者の平素の授業を見ることで、良い点や改善点を把握するとともに、学習者の現状を把握することが狙い。

R4.10.3 第1回指導案検討

- ・推進委員は参集形式、その他の参加者（東京学芸大学教授、大学入試センター 試験問題調査官、県内の指導教諭）はオンラインで参加。

R4.10.21 第2回指導案検討

- ・第1回と同じ形式

R4.12.6 公開授業

1 指導案検討について

◎第1回指導案検討

〈授業者が構想した指導案〉

○第1学年「現代の国語」

○単元名

「出願書類の活動報告書を互いに推敲する活動を通して、読み手が求めている情報に即した活動報告書にするための課題点について考える」

○本時の目標

「目的や意図に応じて書かれているかということについて自分や相手の文章の課題や特徴を捉えなおし、読み手が求める情報に即した活動実績報告書に書き直すためにはどのような工夫をすべきか考える。」

※「産業社会と人間」を行っているが、レポートが書けないという問題意識が授業者にある。

〈参加者の意見〉

・国語の授業としてどういうところに着目させたいのか。情報の捉え方なのか、書き直し方なのか。

・生徒同士で評価しあうことが難しい題材。書いた本人も自分でよく書けたという実感が必要ではないか。

・付けたい力はわかるが、それを書く目的や意図が生徒に明確にイメージできるものが良い。

・活動はシンプルに、思考は深く。

・学校紹介などが読み手も明確にできて良いのでは。

1 指導案検討について

◎第2回指導案検討

〈授業者が構想した指導案〉

○第1学年「現代の国語」

○単元名

「文化祭のレポート(報告書)を推敲して、読み手の目的に合った、分かりやすい文章にしよう」

○本時の目標

「目的や意図に応じて内容や文章構成を工夫して書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特徴や課題を捉え直したりすることができる。」

※自分の学校の文化祭を紹介する新聞記事を5つの担当に分かれて書き、相互に改善点を指摘する活動。

〈参加者の意見〉

・推敲の観点の内容なのか、文章表現なのかわかりにくい。

・他者からの助言もおそらく内容面での指摘が多くなり、レポートを書く形を身に付けさせたいというねらいからはずれるのでは。

・もう少し具体的な指示がないと、生徒は何をしてよいかわからないのではないか。

・評価規準が内容や構成、表現も含んでおり、観点を絞った方が良い。

2 授業の実際について

◎公開授業

〈授業者が構想した指導案〉

○第1学年「現代の国語」

○単元名

「文化祭のレポート(紹介文)を推敲して、読み手の目的に合った、分かりやすい文章にしよう」

○本時の目標

「目的や意図に応じて内容や文章構成を工夫して書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特徴や課題を捉え直したりすることができる。」

○学習課題

「〇〇高校の文化祭を知らない人にも、伝えたいことが的確に伝わるようにするためにはどのような工夫ができるだろうか」

○本時の評価規準

「ワークシートにおいて、2回目のリライトを、話し合いの結果を踏まえた上で推敲して書くことができ、その理由に妥当性がある」

2 授業の実際について

◎公開授業

授業映像(編集版): https://youtu.be/OQEkHJb5_6E

〈動画内の授業場面〉

0:00～ 班のメンバーのレポートについて助言を考える

3:39～ 班内で互いのレポートへの助言を伝え合う

6:49～ 助言を受けて自分のレポートを推敲する

9:40～ 推敲したレポートとその工夫点を全体で共有する

3 研究協議について

◎研究協議(14:15~16:00)

○授業者の振り返り(5分)

○授業評価シートまとめ(10分)

○A・B・Cの3グループに分かれて協議(30分)

→グループごとに発表(10分)

(主な意見)

- ・題材が身近で活動に意味が出た。
- ・生徒の活動がしっかり保障されていた。
- ・読み手を五種類設定したが、一つの方が良かった？
もちろん、複数設定した良さもあった。
- ・何を助言して良いかわからない生徒もいた。
- ・相手によって伝え方が変わることを比較する活動も良い。
- ・生徒自身に聞き手によって伝え方が変わるということを気づかせたかった。

○指導主事からの助言(10分)

3 研究協議について

○大学入試センター堀内調査官からの助言(15分)

- ・目的意識を踏まえた上で書かせることが重要。
- ・単元構想の際に具体的な生徒の姿を描くことが大事
(どういうふうな粘り強さ、自己調整、主体性を求めるのか)
- ・学力が定着したかを質的に見取ることが重要であり、毎時間の評価(データ収集や状況の点検等)にこだわりすぎると評価が煩雑化してしまう。
- ・組織としてどうやって力を高めていくか。
(学校の教育目標を踏まえて国語科として何ができるか)

○東京学芸大学中村教授からの助言(15分)

- ・PISAの自由記述の部分は、自分の考えを根拠を示して書くことや相手に伝えることを意識して書くことに課題がある。
- ・他者軸で書けるようになるには他者の存在が必要。
→学校で他者とともに書けるようになるのが「書くこと」
- ・課題設定は学校の実態に踏まえて設定するべきだが、目標だけはぶれないようにする。
- ・先生が準備しながらも生徒が課題意識を持って単元設定を行えるのが理想。

4 本年度の取り組みの成果と課題

- **「付きたい力」** を明確にした授業構想
 - ・ 学習指導要領 + 深い教材研究
- **「学習者の実態」** を踏まえた目標設定
 - ・ 適切な目標の設定
 - ・ 適切な評価規準、評価基準
- **「授業構想」** とは単元の全体の流れ
 - ・ 本時を活かすための前時までの学習
 - ・ 本時を活かすための次時の学習
- **「適切な学習課題」** による主体性の喚起
 - ・ 深い教材研究 = より良い学習課題

4 本年度の取り組みの成果と課題

- **「ICTの活用」**による主体性の喚起
 - ・ MetaMoji
 - ・ パワーポイント
- **「生徒の沈黙考」 = 「教員の我慢」**
- **「言語活動」**の精選
 - ・ その「言語活動」で思考は深まっているか
 - ・ タイムマネジメントの重要性
- **「振り返り」**の時間確保とその活かし方
 - ・ 振り返りも含めた授業構想
 - ・ 指導のP D C A

4 本年度の取り組みの成果と課題

- **指導案検討** = 「唯一解」はない
= 教師の「探究」
- 「船頭多くして、船、山に登る」
「足し算から、最後は引き算」
→ **授業者の思いが重要**
- **どのような生徒を育てたいのか**
 - ・ 学校目標／授業改善スクールプラン
 - ・ 教科目標
 - ・ 年間指導計画